

(23) 麻痺性貝毒の機器分析法の高度化及びスクリーニング法の開発

予算

農林水産省消費安全局：安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業

概要

大阪湾では近年、春季に有毒渦鞭毛藻*Alexandrium tamarense*の増殖による二枚貝の毒化が多発している。本事業では*A. tamarense*で毒化した貝種ごとにイムノクロマト法を用いた簡易分析キットで分析を行うとともに、公定法（マウスアッセイ）やHPLC法でも分析し、スクリーニングレベルを検討した。2019年度は、淀川で*A. tamarense*により毒化したヤマトシジミにおけるイムノクロマトの反応性を確認した。淀川で採取したヤマトシジミについて、公定法により4MU/g以上の毒力を示したサンプルを段階調整し、異なる希釈倍率においてイムノクロマトの反応性を確認した。その結果、2MU/gでは50倍希釈液で、4MU/gの80倍希釈で陽性反応（－）が得られたことから、それぞれの希釈率が2MU/g、4MU/gのスクリーニングに適用可能と判断された。また本年度は前年までに取得した、アカガイ、トリガイのスクリーニングレベルと希釈率をまとめ、マニュアル化した。さらに漁業者向けマニュアルを作成し配布した。本事業は2019年度で終了する。

担当者

山本圭吾、横松宏幸、上田真由美